2 Channel Amplifier

ADM-30.1

取扱説明書

Integra

安全上のご注意

安全上のご注意
安全にお使いいただくため、ご使用の前に必ずお読みください。

電気製品は、誤った使い方をすると大変危険です。
あなたや他の人々への危害や財産への損害を未然に防止するために、「安全上のご注意」を必ずお守りください。

「警告」と「注意」の見かた	
間違った使い方をしたときに生じることが想定される危険度や損害の程度によって、「警告」と「注意」に区分して説明しています。	
	誤った使い方をすると、火災・感電などにより死亡または重傷を負う可能性が想定される内容です。
注意	誤った使い方をすると、けがをしたり周辺の家財に損害を与える可能性が想定される内容です。

絵表示の見かた	
△ 記号は「ご注意ください」という内容を表しています。	高温注意 感電注意
⃠ 記号は 「～してはいけない」という禁止の内容を表しています。	分解禁止 ぬれ手禁止
● 記号は 「必ずしてください」という強制内容を表しています。	電源プラグをコンセントから抜く 必ずする

⚠ 警告

故障したまま使用しない、異常が起きたらすぐに電源プラグを抜く

電源プラグをコンセントから抜く

- 煙が出ている、変なにおいや音がする
- 本機を落としてしまった
- 本機内部に水や金属が入ってしまった

このような異常状態のまま使用すると、火災・感電の原因となります。
すぐに電源プラグをコンセントから抜いて販売店に修理・点検を依頼してください。

カバーははずさない、分解、改造しない

分解禁止

火災・感電の原因となります。
内部の点検・整備・修理は販売店に依頼してください。

接続、設置に関するご注意

■通風孔をふさがない、放熱を妨げない

禁止

本機には内部の温度上昇を防ぐため、ケースの上部や底部などに通風孔があけてあります。通風孔をふさぐと内部に熱がこもり、火災ややけどの原因となることがあります。

- 押し入れや本箱など通気性の悪い狭い所に設置して使用しない
  （本機の天面、横から 20cm 以上、背面から 10cm 以上のスペースをあける）
- 逆さまや横倒しにして使用しない

禁止

- 布やテーブルクロスをかけない
- じゅうたんやふとんの上に置いて使用しない

■水蒸気や水のかかる所に置かない、本機の上に液体の入った容器を置かない

水場での使用禁止
水濡れ禁止

本機に水滴や液体が入った場合、火災感電の原因となります。

- 風呂場など湿度の高い場所では使用しない
- 調理台や加湿器のそばには置かない
- 雨や雪などがかかるところで使用しない
- 本機の上に花びん、コップ、化粧品、ろうそくなどを置かない

電源コード・電源プラグに関するご注意

■電源コードを傷つけない

禁止

- 電源コードの上に重い物をのせたり、電源コードが本機の下敷にならないようにする
- 傷つけたり、加工したりしない
- 無理にねじったり、引っ張ったりしない
- 熱器具などに近づけない、加熱しない

電源コードが傷んだら（芯線の露出・断線など）販売店に交換をご依頼ください。
そのまま使用すると火災・感電の原因となります。

⚠警告

■電源プラグは定期的に掃除する

必ずする

電源プラグにほこりなどがたまっていると、火災の原因となります。
電源プラグを抜いて、乾いた布でほこりを取り除いてください。

使用上のご注意

■本機内部に金属、燃えやすいものなど異物を入れない

禁止

火災・感電の原因となります。特に小さなお子様のいるご家庭ではご注意ください。

- 本機の通風孔から異物を入れない
- 本機の上に通風孔に入りそうな小さな金属物を置かない

■長時間音がひずんだ状態で使わない

禁止

アンプ、スピーカーなどが発熱し、火災の原因となることがあります。

■雷が鳴りだしたら本機、接続機器、接続コード、電源プラグに触れない

接触禁止

感電の原因となります。

■長期間大きな音で使用しない

禁止

本機をご使用になる時は、音量を上げすぎないようにご注意ください。
耳を刺激するような大音量で長期間続けて使用すると、聴力が大きく損なわれる恐れがあります。

⚠注意

接続、設置に関するご注意

■不安定な場所や振動する場所には設置しない

禁止

強度の足りないぐらついた台や振動する場所に置かないでください。
本機が落下したり倒れたりして、けがの原因となることがあります。

■本機の上に 10kg 以上の重いものや外枠からはみ出るような大きなものを置かない

禁止

バランスがくずれて倒れたり落下して、けがの原因となることがあります。
また、本機に乗ったりしないでください。

■配線コードに気をつける

注意

配線された位置によっては、つまずいたり引っかかったりして、落下や転倒など事故の原因となることがあります。

電源コード・電源プラグに関するご注意

■表示された電源電圧（交流１００ボルト）で使用する

必ずする

本機を使用できるのは日本国内のみです。
表示された電源電圧以外で使用すると、火災・感電の原因となります。

■電源コードを束ねた状態で使用しない

禁止

発熱し、火災の原因となることがあります。

■電源プラグを抜くときは、電源コードを引っ張らない

禁止

コードが傷つき、火災や感電の原因となることがあります。
プラグを持って抜いてください。

■長期間使用しないときは電源プラグをコンセントから抜く

電源プラグをコンセントから抜く

絶縁劣化やろう電などにより、火災の原因となることがあります。

■電源プラグは、コンセントに根元まで確実に差し込む

禁止

差し込みが不完全のまま使用すると、感電、発熱による火災の原因となります。
プラグが簡単に抜けてしまうようなコンセントは使用しないでください。

⚠注意

■ぬれた手で電源プラグを抜き差ししない

ぬれ手
禁止

感電の原因となることがあります。

■お手入れの際は電源プラグを抜く

電源プラグ
をコンセン
トから抜く

お手入れの際は、安全のため電源プラグをコンセントから抜いてから行なってください。

使用上のご注意

■通風孔の温度上昇に注意

注意

本機通風孔付近は放熱のため高温になることがあります。
電源が入っているときや、電源を切った後しばらくは通風孔付近にご注意ください。

■音量を上げすぎない

禁止

- 突然大きな音が出てスピーカーやヘッドホンを破損したり、聴力障害などの原因となることがあります。
- 始めから音量を上げ過ぎると、突然大きな音が出て耳を傷めることがあります。
  音量は少しずつ上げてご使用ください。

移動時のご注意

■移動時は電源プラグや接続コードをはずす

電源プラグ
をコンセン
トから抜く

コードが傷つき火災や感電の原因になります。

■本機の上にものを乗せたまま移動しない

禁止

本機の上に他の機器を乗せたまま移動しないでください。
落下や転倒してけがの原因になります。

■ 機器内部の点検について
お客様のご使用状況によって、定期的に機器内部の掃除をお勧めします。
本機の内部にほこりのたまったまま使用していると火災や故障の原因となることがあります。
特に湿気の多くなる梅雨期の前に行うと、より効果的です。内部清掃については、販売店にご相談ください。

■ 本機のお手入れについて
- 表面の汚れは、中性洗剤をうすめた液に布を浸し、固く絞って拭き取ったあと乾いた布で拭いてください。化学ぞうきんなどお使いになる場合は、それに添付の注意書きなどに従ってください。
- シンナー、アルコールやスプレー式殺虫剤を本機にかけないでください。塗装が落ちたり変形することがあります。

音のエチケット

楽しい映画や音楽も、時間と場所によっては気になるものです。
隣り近所への配慮を十分にしましょう。特に静かな夜間には窓を閉めたり、
ヘッドホンをご使用になるのも一つの方法です。
お互いに心を配り、快い生活環境を守りましょう。

お買い上げいただきまして、ありがとうございます。
ご使用前にこの「取扱説明書」をよくお読みいただき、正しくお使いください。
お読みになったあとは、いつでも見られる所に保証書とともに大切に保管してください。

目次

使用の前に

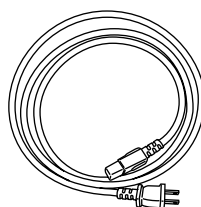
各部の名称と機器の接続

付録

特長

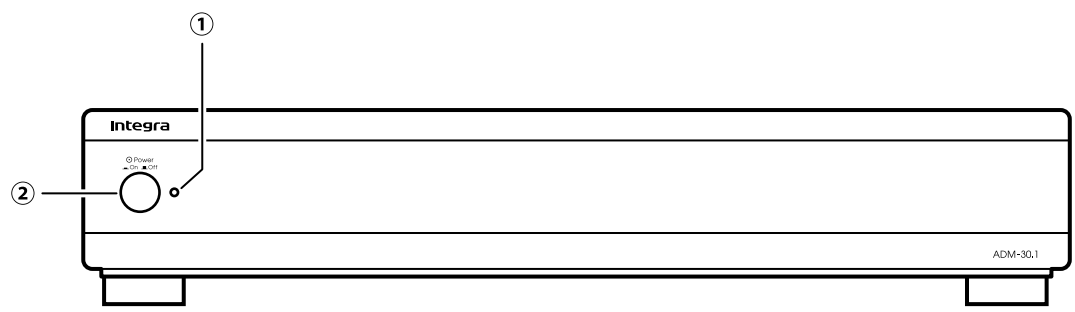
- ■ VL Digital（デジタル）搭載薄型アンプ
- ■ 低インピーダンス対応
- ■ 大型ピンプラグ対応ピンジャック採用
- ■ ACインレット対応
- ■ 12Vトリガー入/出力対応

付属品の確認

パッケージを開梱したら、付属品が揃っていることを確認してください。

電源コード（2m）........1 本

取扱説明書（本書）........1 冊
保証書........1 部

カタログおよび包装箱などに表示されている型名の最後にあるアルファベットは、製品の色を表す記号です。
色は異なっても操作方法は同じです。

各部の名称（前面）

① POWER インジケーター
本機の主電源が ON でアンプ回路がオンのときは緑色に、本機が Ready 状態の時は赤色に点灯します。電源が OFF の時は消灯します。

② POWER スイッチ
本機の主電源を ON/OFF します。
背面の AUDIO SENSE スイッチと 12V TRIGGER スイッチの設定によって本機の電源の入り方が変わります。（→ p.9）

POWER インジケーター	POWER スイッチ	アンプ回路	音声出力		状態
			OUTPUT 端子	SPEAKERS 端子	
消灯	×	×	×	×	全回路が動作していません。
赤色	○	×	○	×	INPUT 端子から OUTPUT 端子へのバッファアンプが機能しているので、 INPUT 端子から入力された音声はそのまま OUTPUT 端子から出力されます。 AUDIO SENSE 回路が動作しています。
緑色	○	○	○	○	全回路が動作しています。

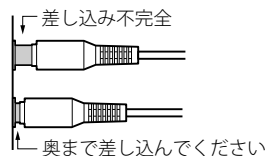
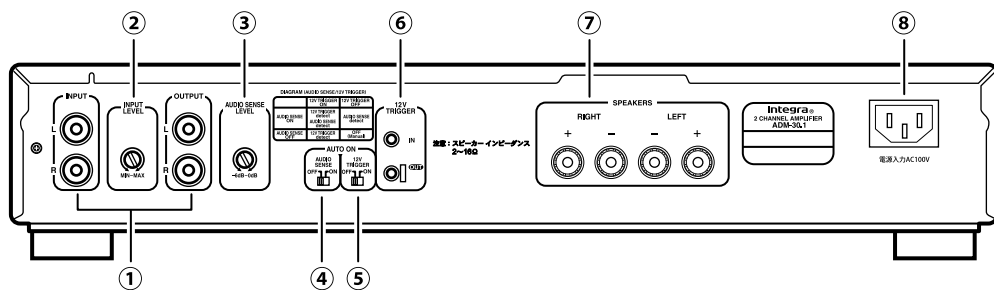
メモ

- 本機の POWER スイッチを OFF にしているときは、接続した機器から本機のアンプ回路のオン / オフをコントロールできません。接続した機器に連動してアンプ回路をオン / オフしたいときは、本機の POWER スイッチを ON にして Ready 状態にしてください。
- AUDIO SENSE スイッチが ON で 12V TRIGGER スイッチが OFF のとき、本機の POWER スイッチを ON にすると、本機の電源がオンになり、POWER インジケーターが緑色に点灯します。音声信号が入ってこない状態でおよそ 10 分経過すると本機は Ready 状態になり、POWER インジケーターが赤色に点灯します。

各部の名称（背面）

ご注意：

- 本機に接続する機器の取扱説明書も必ず参照してください。
- 機器との配線がすべて終わるまで、電源コードを接続しないでください。
- 本機の電源がオンのときは、本機の INPUT/OUTPUT 端子に他の機器を接続しないでください。
- 本機の電源をオンにする前に、必ずプリアンプ（コントロールアンプ）のボリュームを下げておいてください。
- コネクターの色と音声の左右チャンネルに注意して接続してください。

- プラグは根本までしっかり差し込んでください。差し込みが不十分だと、ノイズや動作不良の原因になります。

- オーディオ用ピンコードを電源コードやスピーカーコードと一緒に束ねないでください。音質悪化の原因になります。

① **INPUT/OUTPUT 端子**

アナログ音声の入力 / 出力端子です。RCA ピンコードで他の機器を接続できます。

プリアンプ（コントロールアンプ）を接続する場合は、アンプの PRE OUT 端子と本機の INPUT 端子を接続してください。

本機を複数台使用する場合、本機の OUTPUT 端子と別の本機の INPUT 端子を接続すると、INPUT 端子から入力された音声はそのまま OUTPUT 端子から出力されます。（入力 / 出力リンク機能）

AUDIO SENSE スイッチを「ON」にしているときは、INPUT 端子に接続した機器からの信号を感知すると、自動的に本機のアンプ回路がオンになります。（自動アンプ回路オン / オフ機能）

② **INPUT LEVEL つまみ**

INPUT 端子に入力される信号のレベルを調整します。通常は「MAX」に設定します。

メモ

本機に CD プレーヤーを接続した場合は、INPUT LEVEL つまみで調整してください。

③ **AUDIO SENSE LEVEL つまみ**

INPUT 端子に接続した機器の電源オン / オフに本機のアンプ回路を連動させる場合に、機器からの入力信号の感度を設定できます（-6dB ～ 0dB）。出荷時設定は 0dB です。

④ **AUDIO SENSE スイッチ**

ON にすると、INPUT 端子に接続した機器の電源オン / オフに本機のアンプ回路も連動します。INPUT 端子に接続した機器からの入力信号の感度は、AUDIO SENSE LEVEL つまみで調整できます。

メモ

あらかじめ本機の POWER スイッチを ON にしておく必要があります。音声信号が入ってこない状態でおよそ 10 分経過すると本機は Ready 状態になり、Power インジケーターが赤色に点灯します。

⑤ **12V TRIGGER スイッチ**

ON にすると、12V TRIGGER IN 端子に接続した機器の電源オン / オフに本機のアンプ回路も連動します。

メモ

あらかじめ本機の POWER スイッチを ON にしておく必要があります。

各部の名称（背面）—つづき

⑥ 12V TRIGGER IN/OUT 端子

12V TRIGGER 出力端子を持つ AV センターなどと 12V TRIGGER IN 端子を接続します。トリガーは、5 〜 12V の直流です。本機の POWER スイッチが ON のとき、AV センター側で本機のアンプ回路を操作できます。

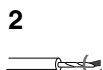
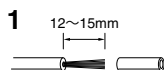
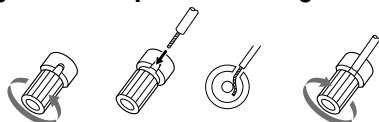
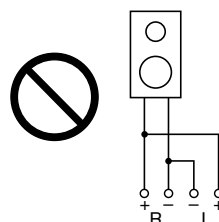
他の機器の電源を本機の 12V TRIGGER IN 端子に接続した機器と連動させたい場合は、本機の 12V TRIGGER OUT 端子とその機器の 12V TRIGGER IN 端子を接続します。このとき、本機の電源に連動して 12V TRIGGER が出力されます。この端子を使って、機器を連結できます。

接続にはステレオミニプラグ付ケーブルか φ3.5mm のモノラルタイプミニジャックをお使いください。

ミニジャックの先端の極性は＋です。

⑦ SPEAKERS 端子

スピーカーコードを使ってスピーカーを接続します。バナナプラグも接続可能です。

1 スピーカーコードの被覆を 12 〜 15mm 切り取ります。
2 露出させたしん線をしっかりよじります。
3 スピーカー端子のねじをゆるめます。
4 しん線をスピーカー端子に差し込みます。
5 ねじを締めます。

- スピーカー以外の機器は接続しないでください。
- コードのプラス / マイナス、スピーカーの左右に注意して接続してください。間違った接続をすると、音が不自然になります。
- インピーダンスが 2Ω 以上のスピーカーを接続してください。2Ω 未満のスピーカーを接続すると、本機が破損するおそれがあります。
- 1 台のスピーカーだけを使用する場合やモノラル音声を再生する場合に、1 台のスピーカーを左右のスピーカー端子に並列で接続しないでください。

- スピーカーコードのしん線のプラスとマイナスを絶対に接触させないでください。回路が故障します。

⑧ 電源入力

付属の電源コードを接続します。

- 必ず付属の電源コードを使用してください。また、付属の電源コードは本機専用ですので、他の機器には使用しないでください。
- 絶対に、先にコンセントに電源コードを差し込まないでください。コンセントに接続した電源コードを本機に抜き差しすると、感電のおそれがあります。

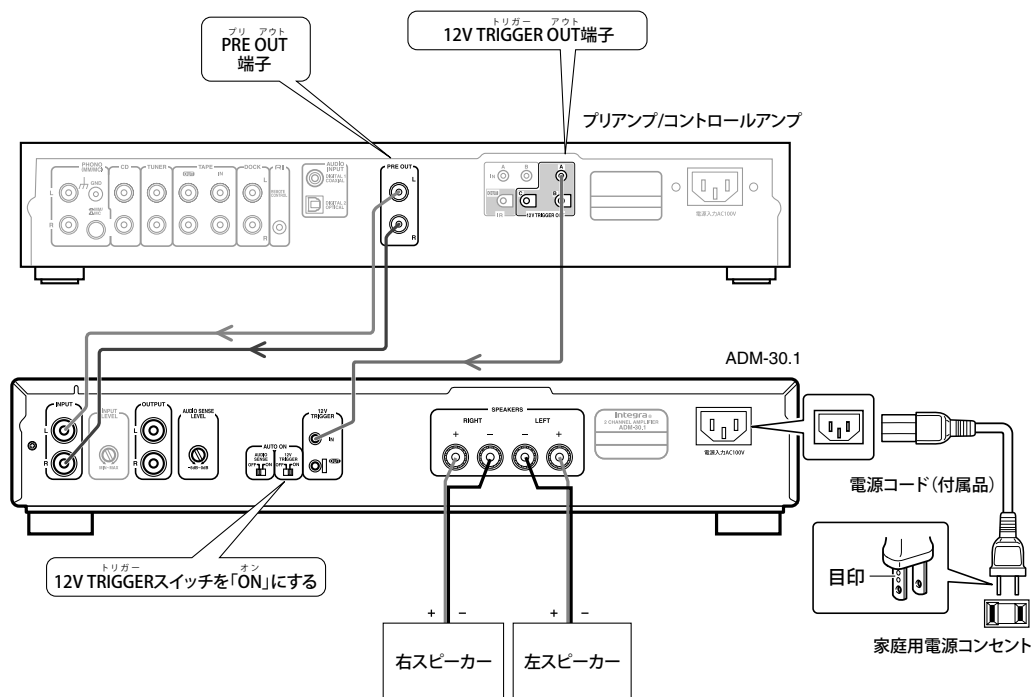
AUTO ON 機能

目的に応じて、AUDIO SENSE スイッチと 12V TRIGGER スイッチを設定してください。

手動（Manual）の場合 /AUTO ON 機能を使用しない場合	AUDIO SENSE/12V TRIGGER のスイッチを両方とも OFF に設定してください。 フロントの POWER スイッチで電源 ON/OFF します。	AUTO ON AUDIO SENSE OFF ON 12V TRIGGER OFF ON
AUDIO SENSE だけを使用する場合	AUDIO SENSE のスイッチを ON/12V TRIGGER のスイッチを OFF に設定してください。 POWER スイッチを押すと電源が立ち上がりますが 10 分間無信号状態が続くと回路電源が切れ Ready 状態になります。 その後信号が入ってくると自動的に ON し、Audio 信号に連動して電源 ON/Ready 状態になります。	AUTO ON AUDIO SENSE OFF ON 12V TRIGGER OFF ON
12V TRIGGER だけを使用する場合	AUDIO SENSE のスイッチを OFF/12V TRIGGER のスイッチを ON に設定してください。 POWER スイッチを押すと Ready 状態となり 12V TRIGGER の信号を待ちます。 その後 12V TRIGGER の信号が検出されると自動的に ON し、12V TRIGGER に連動して電源 ON/Ready 状態になります。	AUTO ON AUDIO SENSE OFF ON 12V TRIGGER OFF ON
AUDIO SENSE と 12V TRIGGER 両方を使用する場合	AUDIO SENSE のスイッチを ON/12V TRIGGER のスイッチを ON に設定してください。 POWER スイッチを押すと Ready 状態になり 12V TRIGGER の信号を待ちます。 その後 12V TRIGGER の信号が検出されると自動的に ON します。 この設定では、Audio 信号が入力されていても 12V TRIGGER の信号が入力されないと Ready 状態になります。 また反対に 12V TRIGGER の信号が入力されていても無信号状態が 10 分間続くと Ready 状態になります。 Ready 状態から電源 ON になるには 12V TRIGGER の信号が入力され、かつ Audio 信号が入力される必要があります。	AUTO ON AUDIO SENSE OFF ON 12V TRIGGER OFF ON

接続図

ここでは、2 チャンネルプリアンプ（コントロールアンプ）との接続方法を説明します。
本機を 2 チャンネルプリアンプ（コントロールアンプ）に接続するときは、アンプの PRE OUT 端子と本機の INPUT 端子を接続し、フロントスピーカーを本機のスピーカー端子に接続してください。

PRE OUT
端子
12V TRIGGER OUT端子
プリアンプ/コントロールアンプ
ADM-30.1
電源コード（付属品）
12V TRIGGERスイッチを「ON」にする
目印
家庭用電源コンセント
右スピーカー
左スピーカー

メ モ

本機では電源の極性が管理されています。より良い音でお楽しみいただくためには、プラグの刃の印がある方がコンセントの溝が長い方の穴に差し込まれるようにして接続してください。
コンセントの溝の長さが左右とも同じ場合は、どちらの向きで接続してもかまいません。

操作

音楽や映画を楽しむには、次の操作を行います。
（事前に再生機器を本機に接続しておいてください。）

1. **プリアンプ（コントロールアンプ）の音量を下げます。**
   本機の電源をオンにするときは、意図せず大音量で音声が再生されてしまうことを避けるために、プリアンプ（コントロールアンプ）の音量を最小にします。

2. **本機の電源をオンにし、プリアンプ（コントロールアンプ）で入力機器を選択します。**

3. **プリアンプ（コントロールアンプ）の音量をゆっくり大きくしていきます。**
   これで準備は完了です。プリアンプ（コントロールアンプ）やその他の機器を操作して、映画や音楽をお楽しみください。

困ったときは

Power インジケーターが赤で点灯したままになる（緑に点灯しない）

- 12V TRIGGER スイッチ、または AUDIO SENSE スイッチの設定が間違っている
  ➔ 12V TRIGGER スイッチまたは AUDIO SENSE スイッチを正しく設定してください。
- 12V TRIGGER スイッチ、または AUDIO SENSE スイッチが ON になっていて、POWER スイッチを OFF にした後すぐに ON にした
  ➔ 電源を入れ直すときは、5 秒以上、間隔を空けてください。
- 12V TRIGGER 端子に機器が接続されていないが、12V TRIGGER スイッチが ON になっている
  ➔ 12V TRIGGER スイッチを OFF にしてください。

POWER スイッチを押しても POWER インジケーターが点灯しない

- 機器の接続が誤っている、または端子の接触不良
  ➔ 電源コードが正しく接続されているか確認してください。電源コードの接続が正しいにもかかわらず POWER インジケーターが点灯しない場合は、本機の POWER スイッチを OFF にして電源コードを取り外し、お買い上げ店またはコールセンターまでお問い合わせください。

POWER スイッチを ON にしたら、POWER インジケーターが 7 秒以上、赤で点滅する

- プロテクト回路が動作している
  ➔ プロテクト回路が働いている可能性があります。電源コードをコンセントから抜き、お買い上げ店またはコールセンターまでお問い合わせください。

Power インジケーターが緑で点灯しているが、スピーカーから音が出ない、または音量が小さい

- 機器の接続が誤っている、または端子の接触不良
  ➔ スピーカーコードなどの接続を確認してください。
- INPUT LEVEL つまみが「MIN」になっている
  ➔ INPUT LEVEL つまみを入力レベルに応じて調整してください。
- プリアンプ（コントロールアンプ）の設定が間違っている
  ➔ プリアンプ（コントロールアンプ）の設定を確認してください。

左右の音がアンバランス、または逆になっている

- 機器の接続が誤っている、または端子の接触不良
  ➔ RCA ピンコードなどの接続を確認してください。
- スピーカーコードの極性を逆にして接続している
  ➔ スピーカーコードの極性を確認してください。

仕様

電源・電圧	：AC100V、50/60Hz
消費電力	：170W
最大外形寸法	：435（幅）× 80（高さ）× 324（奥行）mm
質量	：9.6kg
定格出力	：80W 4Ω 2chDriven 1kHz 0.8%THD (JEITA) 100W 2Ω 2chDriven 1kHz 0.8%THD (JEITA)
実用最大出力	：130W 2Ω 2chDriven 1kHz (JEITA)
ダイナミックパワー	：115W 3Ω 90W 4Ω 45W 8Ω
全高調波歪率	：0.08% (8Ω 1W 1kHz)
ダンピングファクター	：60 (8Ω 1kHz)
入力感度 / インピーダンス	：200mV / 20kΩ
出力電圧 / インピーダンス	：200mV /220Ω
周波数特性	：5Hz ～ 60kHz (+1dB -3dB LINE)
SN 比	：100dB
スピーカー適応インピーダンス	：2Ω ～ 16Ω

本機の仕様および機能は、予告なく変更となる場合があります。あらかじめご了承ください。

オンキヨー ご相談窓口・修理窓口のご案内

オンキヨー製品についてのご購入相談はお近くの販売店へ、修理については、お買い求めの販売店へご依頼ください。
万一お困りの場合には、下記の窓口へご相談くださるようお願いいたします。

■ 製品についてのご相談、カタログのご請求

<table>
<tr><td>お 客 様
ご相談窓口</td><td>コールセンター　受付 10:00〜18:00（土・日・祝、弊社休業日を除く）
※ WEB ： http://www.jp.onkyo.com/support/
※ TEL ： 050-3161-9555　※ FAX ： 072-831-8124
※ 住所 ： 〒572-8540 大阪府寝屋川市日新町 2-1
オンキヨー株式会社 コールセンター</td></tr>
</table>

オンキヨー製品情報、ユーザー登録ホームページ。 → http://www.jp.onkyo.com/

快適なオーディオライフをサポートするセレクトショップ。 → http://www.e-onkyo.com/

修理のご依頼は、取扱説明書の「困ったときは」の項目をご確認のうえご依頼ください。
転居されたり、贈物でいただいたものの故障でお困りの場合は、下記へご相談ください。

■ 修理、部品・付属品についてのご相談、ご依頼

<table>
<tr><td rowspan="2">修 理 窓 口</td><td>首都圏サービスセンター　受付 10:00〜18:00（土・日・祝、弊社休業日を除く）
※ TEL ： 050-3161-9555（コールセンター）　※ FAX ： 03-5819-2940
※ 住所 ： 〒130-0004 東京都墨田区本所 2 丁目 16-5 京王本所ビル 6 階</td></tr>
<tr><td>大阪サービスセンター　受付 10:00〜18:00（土・日・祝、弊社休業日を除く）
※ TEL ： 050-3161-9555（コールセンター）　※ FAX ： 072-831-8124
※ 住所 ： 〒572-8540 大阪府寝屋川市日新町 2-1</td></tr>
</table>

● 050-3161-9555（コールセンター）で集中受付を行っています。

2009 年 8 月現在 お客様ご相談窓口・修理窓口の名称、所在地、電話番号は変更になることがございますのでご了承ください。
（http://www.jp.onkyo.com/support/ で最新の名称、所在地、電話番号をご覧いただけます）

修理について

保証書

この製品には保証書を別途添付していますので、お買い上げの際にお受け取りください。
所定事項の記入および記載内容をご確認いただき、大切に保管してください。
保証期間は、お買い上げ日より3年間です。

調子が悪いときは

意外な操作ミスが故障と思われています。
この取扱説明書をもう一度よくお読みいただき、お調べください。本機以外の原因も考えられます。ご使用の他のオーディオ製品もあわせてお調べください。それでもなお異常のあるときは、電源プラグを抜いて修理を依頼してください。
修理を依頼されるときは、下の事項をお買い上げの販売店、または「オンキヨーご相談窓口・修理窓口のご案内」記載のお近くのオンキヨー修理窓口までお知らせください。
●お名前
●お電話番号
●ご住所
●製品名 ADM-30.1
●できるだけ詳しい故障状況

オンキヨー修理窓口について

詳細は前頁の「オンキヨーご相談窓口・修理窓口のご案内」をご覧ください。

保証期間中の修理は

万一、故障や異常が生じたときは、商品と保証書をご持参ご提示のうえ、お買い上げの販売店またはお近くのオンキヨー修理窓口へご相談ください。詳細は保証書をご覧ください。

保証期間経過後の修理は

お買い上げ店、またはお近くのオンキヨー修理窓口へご相談ください。修理によって機能が維持できる場合はお客様のご要望により有料修理致します。

補修用性能部品の保有期間について

本機の補修用性能部品は、製造打ち切り後最低8年間保有しています。
性能部品とは、その製品の機能を維持するために必要な部品です。保有期間経過後でも、故障箇所によっては修理可能の場合がありますのでお買い上げ店、またはお近くのオンキヨー修理窓口へご相談ください。